

國際私法學會

國際私法は、その内容の特殊性もあり研究者も数少なかつた

ところから、斯學の研究者は、當初から、わが國における全國的な法律の學會として、最も長い歴史を有する國際法學會（その機關誌たる國際法外交雜誌は既に五十巻を超えている）中に含まれ、また終戦後成立した日本私法學會にも参加している。しかるに近時この學問に對する一般の認識が高まり需要性も頗る増大し、研究者も亦相當の數に達した。そこで従來から問題となつていた獨立の一學會を組織してはとの議が熟し、遂に昭和二十四年の秋には國際私法學會の成立を見、既に數回の學會が開催され、發展の一途を辿つてゐる。その概要を示せば、次の如くである。

第一回例會

時 昭和二十四年十一月四日

所 神戸大學

研究報告

國際私法上における裁判管轄と當事者の國籍

東大助教授 池原季雄

マンチニの國際私法理論

京大教授 齋藤武生

第二回例會

時 昭和二十五年五月五日

所 神戸大學

研究報告

わが民事法上における住所

一橋大教授 久保岩太郎

學會の動き

國際私法上における住所地概念の決定

京大教授 齋藤武生

屬人法における本國主義と住所地主義

東大教授 江川英文

屬地主義理論

東北大助教授 折茂 豊

第三回例會

時 昭和二十五年十月二十七日

所 京都、西園寺公別邸清風莊

研究報告

外國會社の支店の國際私法上における地位

神大教授 川上太郎

歐洲より歸りて

東大教授 江川英文

第四回例會

時 昭和二十六年五月一日

所 東京神田、如水會別館

研究報告

東北大教授 折茂 豊

英法上の住所

第五回例會

時 昭和二十六年十一月五日

所 神戸大學

研究報告

ロシア會社の法律上の地位
準據抵觸法の問題

同大助教授 岡本善八
中大助手 桑田三郎

一橋論叢 第二十八卷 第一號

第六回例會

時 昭和二十七年四月三十日

所 東京神田、中大舊西園寺邸

研究報告

國際私法上における夫婦財産制 東北大学教授 折茂 豊
 國際私法上における婚姻の身分的效力 京大助教授 溜池良夫

本學會の特色ともいべきものは、殆んど専門學者のみからなつており、従つて會員も少數ではあるが、會員各自が問題、例えば研究報告の課題の如きも、自己自らの問題として取り上げ、如何にして掘り下げ如何に開拓して行くべきかにつき、文字通り協力していることである。またこの數少ない會員が他方において、殆んどすべて國際私法學會及び日本私法學會にも加入しており、しかもその學會内において何れも國際私法部會があるため、會員の研究報告を擔當する機會の頻繁なことは、恐らく他の學會に例を見ないであらう。

會員の協力の一つの顯われとして、國際法學會編の名義ではあるが、事實上、本學會の會員十數氏執筆決定の下に國際私法講座が計畫され、大體において第一卷國際私法總論、第二卷國際民法、第三卷、國際私法特殊問題の全三卷、密植各卷二五〇頁が刊行されんとしている。従來望んで、しかも實現し得なかつた部分につき、學界並に實際界の要望に應え、その渴を醫し得るところが多いであらう。(久保岩太郎)